

今日、ここに集まった人たちとクリスマス礼拝を捧げられることに感謝します。神様はこの場所に来た人々を意味があって導かれています。この神様の摂理・導きによって自らが本当は拙むであったろうマイナスの状況をもう一度見直すチャンスが与えられているのです。私たちは、この摂理によって神様の計画に戻ることができることを覚えておかななくてはなりません。「的を外すこと」これは、聖書では罪と定められています。私たちが進むべき道を少し踏み外して本当は愛さなくてはいけない人を愛せなくなる、本当は、喜びを流したいのに逆に悲しみを流してしまう…そのような、ずれた道からもう一度本来の私たちに私たちがもてる神様からプレゼントされた人生の計画のためにもう一度戻ることができるというのが、御言葉の摂理です。それを選ぶのは、私たち自身です。それぞれに選ぶ権利があって、「自分の道を歩みたい」と言う人もいるだろうし「もし今の道よりも自らが進むべき道があるのなら良い方の道を選びたい」と言う人もいるでしょう。それが、このクリスマスによって大きく分かれます。自分のために命を得ようとする人と、そうではなく自らの命を失っても誰かのために流したい…この差がとても大きいのです。さて、皆さんはどうしてクリスマスが25日なのか知っていますか？一年のうちで24日の晩が一番長い夜だと言われています。(冬至)そして25日からだんだんと夜が短くなっていきます。暗闇があったけれども、そこに光が射した。その暗闇が一番長い夜に光をとす。それが星だったのです。イスラエルの民が700年間、預言者がずっといなかった暗闇のトンネル時代、この晩に羊の見張り番をしていた羊飼いたちに最初に伝わったのです。神様からのプレゼントは、必ずこういった犠牲をはらったところに最初に届けられるのです。「クリスマス」はchristとmasがくっついた言葉です。christは、救い主イエス・キリストです。masはミサという意味です。ミサというのは、「犠牲」という意味です。イエスキリストが十字架で流された血によって、本当は私たちが受けなければならない火で焼かれなければならない罪が流された。「赦す」の意味です。犠牲を伴わなければ赦しを得られないのです。「ごめんなさい」という行為も犠牲です。あなたの心を打ち砕いて誰かの前に自らの罪を認める…自らを低くする、犠牲が伴うから赦されるのです。イエスキリストの犠牲というのはこのようなものです。クリスマスというのはお祝いのように見えますが、全てはこの十字架に結びつきます。でも、この悲しく思える出来事を喜びましょう。なぜなら、完成された犠牲だからです。ですから私たちはクリスマスに愛を知ることができるのです。「愛されたんだ。自分のために命をかけて愛し、私の火に焼かれるべき罪が彼によって赦されたんだ」と。4本のろうそくを灯します。4には「完全な」という意味があります。「天における完全な贖い・赦し」です。ろうそくも自らを削って光っています。神様は、このクリスマスに私たちに愛を伝えました。犠牲を示しました。そして、私たちは、このクリスマスにしなければいけないことを委ねられています。それは、「赦し」です。クリスマスの最高のプレゼントは「私たちが赦されたという証明」です。聖書の中には、赦されるために赦しなさいという記事があります。私たちの心に赦す気持ちを持つ事が大切です。クリスマス…祭りを捧げるために心の中で犠牲を払えと言われています。自らがもつ今までの様々な悪い罪と的を外した歩みをイエスキリストは、私たちの代わりに背負われました。彼の犠牲を思い起こして私たち自身も1つの犠牲を負わなくてはなりません。これは結果、愛するということに結びつきます。私たちの口が、人を傷つける凶器のままであるならば、自分は赦されたにも関わらず相手を鞭打つ人になってしまいます。どうして相手を傷つけるのか？それは愛がないからです。では、どうして愛がないのでしょうか？それは相手を赦していないからです。では、どうして赦せないのでしょうか？それは、今までのその人との関わりの中で良い事がたくさんあったのですが、たった1回の悪いでき事がそれを忘れさせているからです。1つの出来事から過去の記憶は全て悪いもの書き換えられてしまっているのです。今、赦せないと思う人がいるのであれば思い起こしてください。その人に対して最初から嫌な思いがあったのでしょうか？しかしたった1つのどちらかの悪い言動でお互いの関係が悪くなってしまったのです。世の中の人であれば一生この関係は解決できません。しかしクリスチャンは違います。私たちのその悪い過去の記憶を彼(イエスキリスト)は十字架にかかり購われたのです。私たちの心の中にできた様々な葛藤や悪い感情を彼は代価を持って購ったのです。ですからクリスチャンには悪い記憶は残らないのです。もしその人を赦そうと決断しイエスキリストがその人を愛したのなら私も愛しますと祈れば購われた記憶は無くなります。ですから、記憶を整理するために祈り、イエスキリストは記憶の整理のために十字架にかかれたのです。私たちはすでに整理され、犠牲を払われたのです。キリストの犠牲は3つのことを示しています。①**本当の愛を示す**。私たちが愛しているということを示してくれました。②**赦せることを示す**。愛によって罪のない人が十字架にかかって死に、そのとき彼は「私も赦す」という意味の祈りでした。どんな事でも赦せるんだということを示してくれました。(マタイ6:9～15)自らの心で自分の十字架を負ってついてきなさいと言われています。自分の十字架とは「犠牲」の事です。血の滴るような犠牲ではありません。感情の犠牲を払いなさいと言われています。これから自分の感情をコントロールする必要があります。③**過去の変化を示す**。(Ⅱコリ5:15～17)過去は変えられたのです。今まで生きてきた経験は、全て素晴らしいものです。しかし、1つの悪い出来事が、全ての素晴らしかった過去を悪くしてしまったのです。これは悪魔のやることです。世間では「因果応報」などと言います。が、私たちの調子が悪いのは、原因と結果によるものではなく、過去の記憶が将来、新しく得る情報に対して悪く働くからです。過去の記憶から勝手に標準を決めつけてしまうからです。標準からの脱皮が大切です。私達は過去の全ての記憶や経験で標準を作り上げています。すべてをそれで作り上げ、そして最終的にイエス・キリストのこともそうなるのです。あなたの標準をとらなくてはなりません。これが固定概念です。人間は自分で経験していないことを唯一自分の概念にしてしまう生き物です。イエス様はそのあなたの標準を取ろうとしています。イエスキリストがクリスマスに起こした奇蹟は私たちの全ての悪かったものを消し良いものをもう一度私たちにフィードバックさせてくれるのです。感情衝動をクリスマスツリーに罪の飾りを飾るようにおいていきましょう。本当に素晴らしかった記憶を回復させましょう。私たちは愛されるために生まれて愛されるために生きて愛するために今があるのです。それは、赦すことができる力です。人が赦すことができなくなったらコミュニティーは成立しません。愛することは赦すことで、そこには犠牲が伴いますが、それを行ったのがイエスキリストです。私たちは過去の記憶から勝手に標準を作り、誰と出会っても、その人を裁いて生きる排他的な生活をいってはけません。愛し、赦し、受け入れ合って自らの生きる道に立って進んでいきましょう。(要約者：行司佳世)